

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第42回「肩凝りモバイル」

【もっと軽薄に】

最近ではパソコンを携帯する人が増えている。「後藤さんは持っていないのですか」と聞かれることも多い。私は持って歩くこともあるが、常時携帯しているわけでもない。

日本の製造業のお家芸は「軽小短薄」だという。その好例が携帯電話であり、サブノートパソコンである。最近のサブノートは性能が急激に向上している。うかうかしていると、デスクトップも抜かれてしまう。

性能は大変結構なのだが、私のサブノートは1.7kgの重量がある。これにAC電源、必要なコード類を入れると2kgになり、気楽に携帯するには少し重い。カメラを持ち歩いた経験では、1kgというのが1つの基準だと思う。世の中にはすでに1kgのサブノートも出現しているが、カタログを見ると、付属品の携帯が避けられない。これが200g、300gという単位で重量を増してしまう。

ダンベル健康法というのが流行した。鉄アレイは1kg～3kgという重量なのだから、逆に考えると1kgのパソコンでも体の負担にはなるだろう。

ダンベルは両手に持つ。これにならって荷物を二等分すれば体のバランスがとれて好都合かと思われる。私はこれを実践してカバンを2つ持って歩いた時期がある。注意しないと電車の中で1つを置き忘れやすい。もっと危険なのはアルコールを飲む時である。親切なお店の人でも、お客1人にカバン1つと考えている。また雨の日は傘をさす必要があるのでバランスをとるのが難しい。

重い荷物は背中にリュックで背負えば楽になるが、混雑した電車の中ではリュックは迷惑である。重いカバンの運搬に車輪のついたキャリーを使う人がいる。一見すると航空会社の乗務員風ですね。小さなスーツケースに車輪のついたものは最近

の流行である。パソコンに直接に車輪を付けるほどのことはないが、杖のような棒の下端に車輪を付けて、棒の途中に荷物を掛けるフックを設けるのはどうだろう。車輪を二重にすれば安定するような気がする。



【英語キーボードが良い】

サブノート・パソコンの弱点はサイズである。ユーザーとしては軽くて薄いマシンを望みたいが、磁気ディスクやバッテリーの都合で、極端な薄型に

はできないという。そうすると「小型＝狭幅」となる。

そこで犠牲になっているのがキーボードである。なかなかフルサイズにならない。最近のサブノートの広告では、キーピッチが15.1mm、こちらのは16mmと競っている。その中には右端のキーが縮退しているものもあって、哀れである。

キーピッチを広げたいのなら、日本式にこだわらずに英語キーボードにすれば多少は楽になる。現に私の友人の中には、わざわざ英語キーボードの機種を入手して使用している人も多い。なぜ日本式がいまだに主流なのか、私には理解できない。特にサブノートには効果があるはずだ。

キーボードに比べると液晶画面は格段に進歩してきた。サブノートでも800×600のSVGAとなっている。画面が見やすくなったので、隣の座席の人にも楽に読まれてしまう。昔の画角の狭い液晶の時代にはなかった心配である。

サブノートに限らず、ラップトップではポインティングデバイスの決定打がない。現在でも、トラックボール、トラックポインタ、パッドなどが競争している。思い切ってマウスを標準にするという選択もあるように思う。

【どこまで携帯するか】

先に付属品のことを書いた。何を持って歩くかは、目的によって異なる。ある場合にはAC電源は不要である。フロッピーディスクがいらないこともある。拡張ポートを使わない場合も多い。究極の姿として、パソコンは不要であり、フロッピー、あるいはPCMCIAカードなどでファイルだけを持ち歩く人がいる。他人のマシンを頼りにする他力本願の路線である。

ネットワークへのアクセスも、ある場合には携帯電話、別の時にはISDN公衆電話が便利である。私もISDN公衆電話のジャックを大いに活用している。パソコンを接続するのに「切替」の機能はとても便利だ。それに通話料も安い。

出先でもLANに接続できるケースが増えてきた。学会の会議などでは端末室が用意される場合がある。この原稿は社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)の会議室で書き始めているが、ここでは床のコンセントのカバーを開くと、電源とLANのジャックが用意されている。さすがにインターネットの本拠地である。

LANがあるとすれば、PCMCIAのLANカードを持参しないといけない。おっとイーサネットのケーブルも多少の長さが必要だ。このケーブルは太くて重たい。

やれやれ結構な重装備になってしまった。マルチメディアの時代は便利になったが、荷物は一向に軽くない。

Illustrator : Harada Kaori



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp